

○新品種キミノハナミョウガ (前田正之) Masayuki MAEDA: *Alpinia japonica* f. *xanthocarpa*, a new form.

ハナミョウガは、関東南部以西・四国・九州・支那・台湾に知られて居るが、一般的に山足地の樹蔭に小群落をなして観られるものである。

1952年12月、熊本県立第一高校山城学氏は、熊本県八代郡竜峯山(標高517.2m)麓の油谷附近(標高150m)に於いて、果実の黄金色品を採集し、其の果実を筆者に送られた。然るに、1953年九州を襲つた大水害に遭遇して、標本は無用に帰したので、再び採集せんと思つていたところ、1954年11月14日、鹿児島県甕島手打の山足地(標高70m附近)で採集し得たので、ここに新品種として報告しておく次第である。其の後熊本県と鹿児島県の境界に在る矢筈嶽(標高687.3m)の山足地標高250m附近(米之津からの登山口)に於いても群落をなしている事が見出された。

該植物は果実が黄金色であるが、この他に偽茎並びに葉が屢々普通品に比べて純緑色の傾向がある。尙九州の暖地では、花及び果実に毛の無い var. *kiushiana* Kitamura ヲクシハナミョウガも点生して居る。(熊本大学理学部生物学教室)

Alpinia japonica (Thunb.) Miq. form. **xanthocarpa** Yamasiro et Maeda, form. nov.—Fructus luteolus.

Nom. Jap. Kimi-no-hanamyoōga (nov.)

Hab. Kyushu. Teuti, ins. Kosiki (leg. M. Maeda, Nov. 14, 1954)—tupus in Herb. Kumamoto Univ.)

○再び *Pinellia cordata* について (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: Recognize *Pinellia cordata* as an alien.

余は本誌 26: 27 (1951) に '奇なるカラスビシャク属の一植物' なる題下に小笠原父島から東京に移植されたカラスビシャク属の一植物にニオイハンゲの新称を与え、かつ *Pinellia cordata* N. E. Brown らしいと記した。これを昨年渡欧された原寛博士に依頼し Kew 植物園所蔵の原標本と比較していただいたところ誤りなきを知つたので、ここで改めて記録する。

The writer reported of a plant identifiable as *Pinellia cordata* N. E. Brown in this journal 26: 27 (1951) with an illustration. Last summer Dr. H. Hara who visited Kew kindly compared this plant for me with the type specimen kept there and informed me that his investigation revealed that this plant well matches *P. cordata*. This plant was brought in from Chichishima, Bonin Islands some years ago and

is cultivated in Tokyo, but it is not known how this plant was found in that island. This propagates well in Tokyo and is likely to become an alien in Japan.

○ハリバンゴケ妙義山に産す (水島うらら) Urara MIZUSHIMA: *Molendoa sendtneriana* (Bruck & Shimp.) Limpr. from Mt. Myogi, Prov. Kōzuke.

Molendoa sendtneriana は所謂、好石灰岩藓の一つに数えられる可きもので、東京近郊でも多摩川、秋川の upstream 方面、秩父等の石灰岩地域に割合に広く分布する模様である。もつとも好石灰岩藓と云つても厳密に石灰岩にのみ着生すると云うのではなく、石灰岩地域では例えば角岩等にも生育するものである。然し石灰岩地域以外には見出されたと云う報告を知らない。筆者は同種を上野、妙義山の白雲山山頂附近の標高約 1000-1100m の岩上で採集した (Herb. U. Mizushima 4218, 4221, May 3, 1952, sterile)。妙義山は著しく解析を受けては居るが全山輝石安山岩及び少量の角閃石安山岩より成るとの事である (久野久: 火山及び火山岩 1954)。同山には矢張り好石灰岩植物のキンモウワラビを産する事が既に知られているので *Molendoa sendtneriana* の産はキンモウワラビの生育と軌を一にして興味ある事と思う。

○巨大な柱瘤 (俗に乳房) を有するイチヨウ (藤野正義) Masayosi FUJINO: The Ginkgo tree with large "Masercylinders" (socalled "Chichi").

イチヨウの柱瘤については、藤井 (1895) が東京及び中部日本で観察されたものについて報告されているが、筆者は長崎県北松浦郡鷹島村三里免の今宮神社境内に生育しているイチヨウに藤井氏が観察された柱瘤より大きいと思われるものを見出したので報告する。このイチヨウは雌株で株の面積は約 2.4 平方 m。根元附近から三本に分れ、その中の一番大きい幹で人立の所で周囲 3.95 m、その一番低い側枝の下面に多数の柱瘤が見られる。

最下方の柱瘤は長さ 2.8 m、基部で合着し先端附近で離れ地上 1.45 m 迄垂下している。此の柱瘤の基部の周囲 1.85 m、分離している附近で周囲 0.75 m である。此の側枝には、主幹からの分岐点より約 4.5 m 位上方迄大小の柱瘤が見られる。

このイチヨウは附近一帯で乳神様として崇神者が多く、参拝者はこのイチヨウの柱瘤を削り煎じて催乳剤として用いているそうである。因みに此の社は久寿年間に勧請され連玉命、仁徳天皇、源大夫判官久公を祭り境内には、元寇殉難将士を祭つた五輪塔が多数あつて元寇史蹟として有名な所である。

(長崎大学学芸学部)